



情報(第 143 号)



令和3年12月10日

745-0031 周南市銀南街 21 銀南ビル 2 階
銀座社会保険労務士法人 社会保険労務士 吉国 智彦/和田 秀夫
TEL 0834-34-0567 FAX 0834-34-0565
E-mail:ginzasyakaihoken@iaa.itkeeper.ne.jp
URL:<https://ginza-syaroushi.com/>

ヌメリスギタケミニらしい：岩国市錦町の山中（令和3年11月27日）

治療と仕事の両立支援

今号より複数回にわたって「治療と仕事の両立支援」をテーマとして解説します。



1 「治療と仕事の両立支援」とは

これまで健康だった人が病気にかかり治療が必要になると、以前の通りには働けなくなるケースが出てきます。

その場合、治療に専念するか、治療しながら働くことができるのかはケースバイケースで、働くことを希望する人にとっては、治療と仕事を両立させることができるかは大きな問題です。

職場で共に働く上司や同僚からは、治療をしながら安心して働ける環境の整備をしていくことが求められます。

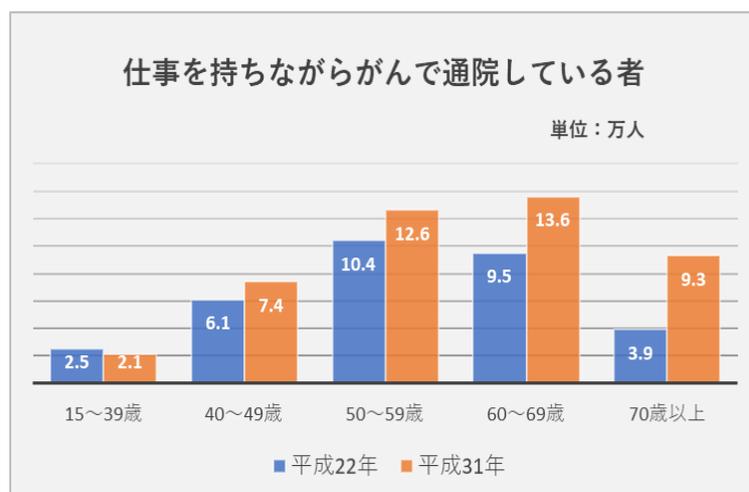
2 疾病を抱える労働者の状況

「治療と職業生活の両立等支援対策事業」(平成 25 年度厚生労働省委託事業)における企業を対象に実施したアンケート調査によれば、疾病を理由として 1 か月以上連続して休業している従業員がいる企業の割合は、メンタルヘルス 38%、がん 21%、脳血管疾患 12%となっています。また、「平成 22 年国民生活基礎調査」に基づく推計によれば、仕事を持ちながらがんで通院している者の数は、32 万人超に上っています。さらに、労働安全衛生法に基づく一般健康診断において、脳・心臓疾患につながるリスクのある血圧や血中脂質などにおける有所見率は、年々増加を続けており、平成 26 年は 53%に上るなど、疾病のリスクを抱える労働者は増える傾向にあります。

治療と仕事の両立支援が必要であることを裏付けるデータを、がんを例に以下に示します。

【図 1】

がん患者の生存率の向上に伴い、がんを抱えながら仕事を続けている労働者も多く、推計によれば、平成 22 年は約 32.4 万人、平成 31 年は約 44.8 万人と増加傾向にあります(図 1)。



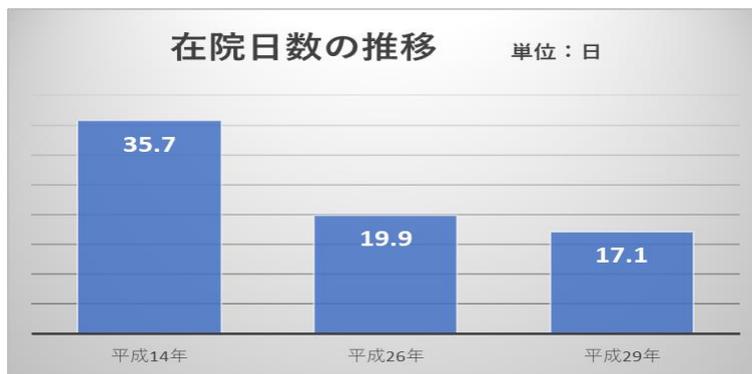
出典：厚生労働省「平成 22 年国民生活基礎調査」及び

「平成 31 年度国民生活基礎調査」を基に同省健康局にて集計

近年の主ながん種の平均入院日数は短くなりつつある一方、外来患者数が増えており、通院しながら治療を受ける患者が増えています。

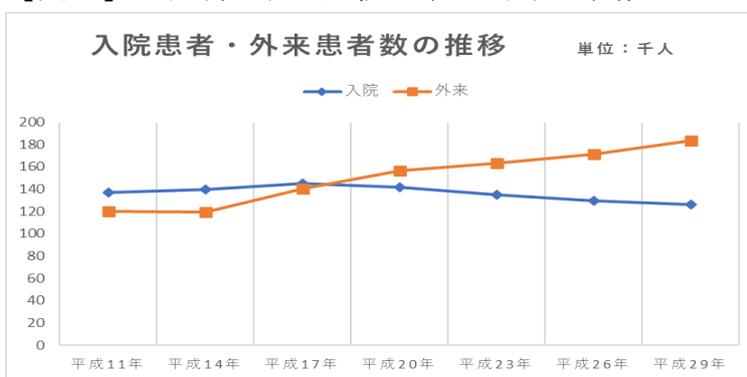
それとともに、治療の副作用や症状をコントロールしつつ、通院で治療を受けながら仕事を続けている場合が増えてきています。

【図 2】 悪性新生物の退院患者における平均在院日数



出典：厚生労働省「平成 29 年患者調査」

【図 3】 悪性新生物の入院患者・外来患者数

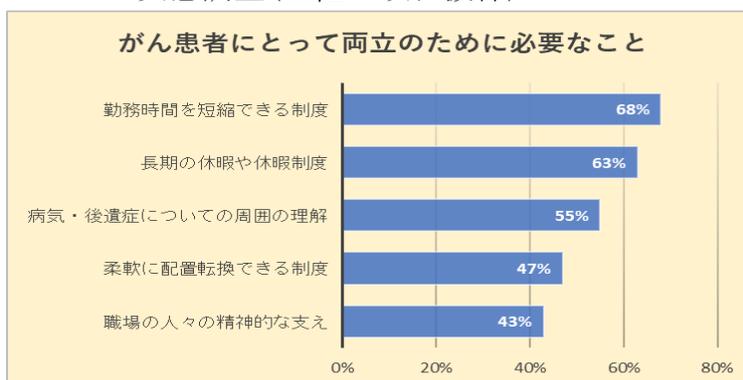


出典：厚生労働省「平成 29 年患者調査」

3 治療をしながら働く

治療を続けながら働くために必要となる制度の整備とともに、周囲の理解による精神的支えが必要となります。

【図 4】 2013 がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査(上位 5 項目抜粋)



出典：静岡がんセンター「がんの社会学」研究グループ

当法人では「治療と仕事の両立支援」をサポートします。

745-0031 周南市銀南街 21 銀南ビル 2 階
 銀座社会保険労務士法人 社会保険労務士 吉国智彦/和田秀夫
 TEL 0834-34-0567 FAX 0834-34-0565
 E-mail:ginzasyakaihoken@iaa.itkeeper.ne.jp
 URL: <https://ginza-syaroushi.com/>